

御崎地区 歴史文化の視点2

## 12. 御崎の信仰

### 【ストーリー】

伊和都比売神社は浅野長矩が岩礁「大園（現在の畳岩）」にあった祠を遷して建立したものである。比売神（姫神）はいつしか縁結びの神となり、現在は近隣のスポットが「恋人の聖地」の認定を受けて人気を集めている。

御崎地区には、伝統的な大師信仰が残されており、斜面地に広がる住宅地を中心に、8か所の大師堂がつくられている。このほかに民家それぞれでも崇拜されており、毎年4月21日には「お大

師まいり」が開催されている。

このほか、江戸時代の絵図にも描かれた兵庫県内一低い山「唐船山」は、文字通り中国の「唐」からやってきた船がここで難破し、その後、島になったという伝説があり、足踏みすると内部が空洞のような音が聞こえることから、現在も船に積まれていた財宝が埋まっているとの伝説が残されている。このような景観は、人々の信仰とその歴史の蓄積を感じさせる。

